

令和7年度 職員向け 事業所自己評価（放課後等デイサービス） 集計結果

公表日 令和8年 2月 16日  
職員5名全員から回収

事業所名	チャイルドステーションつうゆう					
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係が適切であるか。	5		まだ利用定員に余裕があるので、十分なスペースが取れていると思う。また、学習室や運動サーキット遊戯室など、目的に応じた部屋を設ける工夫をしている。	適切であると思っているが、今後必要があれば改善する。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	4	1		現状は対応できているものの、今後利用者や利用回数の増加を見据えて職員を増員し、あと1~2名の配置によってより個々に合わせた支援を充実させたいと考えている。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	3	2	片付け場所や遊ぶ場所・読書をする場所・運動をする場所など、家具の配置や絵カードで視覚的に分かりやすいようにしている。	・生活空間は、子どもに分かりやすく構造化された環境になっていると思うが、利用者に応じてさらに必要なことがあれば環境調整を行う。 ・バリアフリーに完全には対応できていないと思う。玄関やトイレに手すりが必要と感じる時があり、今後必要な対応をする。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	5		・整理整頓・清掃を心掛けている。 ・建物自体が古いので、清潔感是十分とは言えないが、清掃・消毒・換気を徹。底遊戯室の他に相談室や会議室も含めて、こどもの人数や活動の状況に応じて各部屋を効果的に使い分けしている。ソファや床、学習机など、活動に合わせて利用できるようにしている。	清潔で心地よく過ごせる環境になっていると思う。また、子どもたちの活動に合わせた空間となっていると思う。今後も心掛けていく。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	5		クールダウンや過敏さ・不注意への配慮として必要に応じて個室を使用しつつ、家庭学習や一人で静かに過ごしたい場合など、こどもの状況に応じて利用する部屋を臨機応変に判断している。	この項目の内容ができていていると思っている。今後も続ける。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	5			今後も合致するように努力する。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	4	1	評価表はもちろんのこと、おたよりや送迎時の会話の中でニーズを伺い、意向のすり合わせを行っている。	今回が初めての保護者からの評価であり、その結果の応じて業務改善に努める。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5		都度、口頭や書類での情報交換を行い、改善に向けて検討している。	今後も意見等を把握するようにし、業務改善の努力をする。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	4	1		第三者による外部評価・評価結果を業務改善につなげていくことは有効だと思う。今後検討する。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	5		外部からの研修案内は都度周知されている。	研修の充実については今後取り組んでいきたい。
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	5		ホームページで支援プログラムを公表している。	ホームページで支援プログラムを公表している。
	12	個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	5		モニタリングやアセスメント結果、普段の活動の様子を分析し、計画を作成している。	この項目内容については力を入れており、子どもの観察、保護者家族との情報交換、諸検査の実施等のアセスメントを行って分析し、児童発達支援計画を作成している。
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	5		都度情報共有し、常に共通理解の下、計画を作成できている。	そのようにしているつもりであるが、今後も共通理解に努める。
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	5		いつでも支援計画の内容が確認できるようにしている。	そのようにしているつもりであるが、今後もこの項目の内容が達成されるように努める。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	3	2	気になる行動があった際は、都度職員間で情報共有し、行動観察を行い、対応を検討している。	日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを行っている。適応行動についての標準化されたvineland IIの利用を試みており、今後本格的に活用する予定である。
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	5		長期目標と短期目標を設定し、短期目標には具体的な支援を設定するようにしている。	この項目の内容が達成されるように努力を継続する。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	5		そのつもりであり、今後もより努力を重ねながら、意見交換や情報共有にも取り組んでいる。	そのつもりではいるが、今後もより努力していく。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	5		利用者の状況に応じて様々な活動を提案、交渉しながら実施しており、学校生活や行事で明らかに疲労が見られる日は、心身が落ちるような決まった活動を行うこともある。今後もそのつもりで取り組み、より一層努力していく。	している。今後もより努力していく。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	5		状況やケースに応じて個別・集団の活動を計画しながら取り組んでおり、今後もその姿勢を保ちながらより一層努力していくつもりである。	している。今後もより努力していく。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	5			している。今後もより努力していく。

関係機関や保護者との連携	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	2	3		職員の勤務時間の関係で必ずしもその日のうちではないが、共有している。今後もより努力していく。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	5			している。今後もより努力していく。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	5		半年に1回、モニタリングやアセスメントを通して、計画の見直しや継続を判断していく。	している。今後もより努力していく。
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせさせて支援を行っているか。	5			している。今後もより努力していく。
	25	子どもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	5		選択できるように活動を準備している。自己決定が難しいケースには、提供した活動の中でスモールステップで意思表示の機会を設けている。	している。今後もより努力していく。
	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	5		本事業所を利用しているこどもに関する会議には、状況をよく理解した職員が出席するようにしている。	当事業所は連携を行う努力をしている。今後もより有効に現実的な連携をするように努力する。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	5		必要に応じて情報共有を行っている。	昨年7月開設の事業所であり、今、この支援が必要になってきている利用者さんについて情報共有の努力を始めてきており、今後も必要に応じてしていく。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	5			している。今後もより努力していく。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	4	1	必要に応じて情報共有を行っている。	児童発達支援事業所とは密接に連携している。保育園、幼稚園、認定子ども園との間での情報共有と相互理解に努める。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	4	1	まだそのようなケースがないが、今後はその予定である。	今後十分に行えるように努力する。
保護者への説明等	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	4	1	必要に応じて助言や研修の機会を設ける。	相談事業所を通じて児童発達支援センターと連携している。むしろ、他の児童発達支援事業所と有意義な連携をしている。今後も継続していく。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	1	4	現時点では未定。	今のところないが、そういった交流をする機会を設けることを検討する。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	5		必要に応じて参加している。	参加を継続していく。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達状況や課題について共通理解を持っているか。	5		送迎時の情報交換や連絡帳等を通して、こどもの発達の状況や課題について共通理解を丁寧に図っている。	送迎時の情報交換や連絡帳等を通して、子どもの発達の状況や課題について共通理解を丁寧に図っているのは良いと思う。
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	1	4		必要性を感じるケースはあるものの、家族の意向を勘案し慎重に検討していく。ニーズに応じて情報提供は行っていきたい。
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	5		見学時や利用契約をする際に、十分な時間を取り丁寧な説明がなされている。	今後も丁寧な説明を行う。
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	5		計画を作成する際に、保護者の意向と必要な支援についてのすり合わせを行っている。	今後ともいねいに行っていく。
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	5		適切に行い、同意を得ている。	今後ともいねいに行っていく。
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	5		相談があった際は、面談を行っている。	随時行っており、今後も継続していく。
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。		5		昨年7月開所したばかりで、正直なところこの項目についての活動はまだ行っていない。事業所が主導する面があるが、利用者さんの要望・意向を勘案していく。
41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	5		迅速に対応するようにしている。	周知・説明し、相談の申し入れがあれば迅速かつ適切な対応に努める。	
42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	5		月1回の通信発行やLINEでの連絡体制づくりなどの工夫を行い、可能な範囲で通信の発行やホームページでの事業所紹介にも取り組んでいる。	通信の発行を続けていく。現在は経営母体のNPO法人のホームページで情報発信しているが、間もなくこの事業所のホームページを開設する予定である。	
43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	5		個人情報保護マニュアルを遵守している。	十分の留意してきており、今後もそうする。	
44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	5		分かりやすい情報提供に努めるとともに適宜、意向を確認するようにしている。	その努力をしているが、さらにそれぞれの子どもとの適切なコミュニケーションについて探っていく。	
45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	1	4		地域住民の招待等は実施できていないが、経営母体のNPO法人や相談事業所を通して地域の障害福祉事業所とは活発に交流しており、これを当事業所の運営にも生かしていく。	

非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	1	4		周知や訓練はこれから行う。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	1	4		策定しているが訓練はこれからである。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	5		こどもの状況を確認し、職員間で情報共有している。また、その情報をいつでも確認・閲覧できるようにしている。	確認しており、今後もそうしていく。
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	4	1	今のところ、対象者がいない。食物アレルギーの有無は、利用開始前に保護者に確認している（書面・モニタリングにて）。	確認しており、今後もそうしていく。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	1	4	安全管理に関わる研修や訓練実施の際は、必ず参加するように心がける。	今後行う。
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	4	1		今後より充実していくようにする。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	5		ヒヤリハット発生の場合は、職員間で情報共有し、再発防止や対策を迅速に行うようにしている。	今後より充実していくようにする。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	3	2	研修の際は、必ず参加するように心がける。	今後、研修を行い、適切な対応をするようにする。
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	3	2	現在対象者おらず。必要なケースがある場合は、子どもや保護者に十分に説明を行い、職員間での情報共有とともに支援計画への記載を行う。	これまで身体拘束の必要がなかったが、様々な場合を想定して今後取り組む。	